

第3回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1コマ40～45分です。 ※教案は日本語で書いてください。

学校名：大同市外国語学校		姓名：王秀栄		
使用教科書：新課標高考日本語基礎知識 第 2 課 (全 4 コマの内、本教案は 2 コマ目) (例) 第5課の授業を7回に分けて、この授業を3回目にする場合 ⇒第5課 全7コマの内、本教案は3コマ目 1コマ 45 分 【要選択】(高校 ・ 中学) 3 年 クラスの人数 25 人 【要選択】第一外国語 第二外国語 課外活動 その他 () 日本語学習歴 2 年				
この授業の到達目標 1. 日本人が授受動詞を使っている理由がわかる。 2. 授受表現を含む日本の童話がピアリーディングできる。 3. 童話の内容や、登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて理解することができる。 4. チームワークでロールプレーできる。				
この授業の学習項目 1. 浦島太郎という童話 (特に物と行為の授受表現を存在するフレーズに注意する) 2. ピアリーディングの要求と流れ 3. ロールプレーのルール (いい発表の基準)				
時間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容 (詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
3 分	ス テ ッ プ 1 : 考 え ま し ょう	前回の授業ではテキスト79ページから81ページまでの内容については既に勉強しました。バラエティ番組、映画、ドラマ、アニメなどから授受表現を含む部分をカットイングさせて、一分間ぐらいのショート動画を作ってもらおうということは宿題としました。 生徒たちは日本語でショート動画を作るのは初めてです。教師が一番いいと思う作品を一つ選んで、みんなに楽しませてから、質問を出します。 Q：日本人はどうして授受動詞を使っていますか。	1. ウォーミングアップ。 2. やる気を起こさせる。 3. 授受表現を使った場面をイメージさせるため。 4. 生徒の興味関心を引き出すため。 5. 中日異文化を考えさせるため。	1. 生徒の聴解力はそれほど高くないので、中日字幕も加えてビデオを作成してもらった。 2. 生徒たちが積極的に挙手して質問に答える。

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

1 分	ステップ2：学習目標 (Can-do)	本授業の学習目標 (Can-do) を紹介する。 1. 日本人が授受動詞を使っている理由がわかる。 2. 授受表現を含む日本の童話がピアリーディングできる。 3. 童話の内容や、登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて理解することができる。 4. チームワークでロールプレーできる。	生徒に Can-do を事前に理解させ、学習効果を高められる。	PPT で展示して、全員で読ませる。
1 8 分	ステップ3：ピアリーディングしよう (活動1)	ピアリーディングについての要求と流れをはっきりさせてから、活動を始める。(一緒に読ませる) (PPT) 1. 読む内容は浦島太郎という童話だ。 2. この童話は五つの部分に分けられている。そして、各部分が A, B, C, D, E でマークされ、タスクシートに書いてある。 3. 1A～1E, 2A～2E..... 5A～5E が書いてある組み分けのカードはもう人数分用意しておいた。 4. カードを配って、1グループから5グループまでという基本グループと Aグループから Eグループまでという専門グループのように、二種類の五人グループに分ける。 5. カードが手に入ったら、まず専門グループを作る。そして、教師はタスクシートを配る。同じグループの仲間と中国語で相談してもいい。 6. 3分間を勉強した後、タスクシートを全部回収する。そして、新たな基本グループを作って、お互いに自分が勉強したところを日本語で紹介し合って、みんなで順番を考える。それぞれが読んだ部分を並べ替えて一つの文章にする。 7. 3分間のあと、グループごとに順番を発表する。 8. 童話の各部分の内容について専門グループごとに何人かの代表で中国語で語る。(特に授受表現を存在するフレーズ) 童話の最後も予想してみる。	1. 生徒たちはピアリーディングをしたことがないので、この部分をもっとはっきりさせるために、活動方法について詳しく説明して、ピアリーディングを効果的に進めるため。 2. 協働作業の能力を育成する。 3. 生徒の参加度を高めるように、このようなグループ分けの仕方にした。 4. 日本語力を考えて左側の5番目を設計した。 5. 右側の板書通り、この七つのステップによって、インプットからアウトプットへの流れを繰り返すことで、生徒たちは習得する。特に童話の内容や登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて考えさせるため。次のロールプレーの	1. 組み分けのカードとタスクシート (人数分) 2. 早くて静かにグループを作るようにと注意する。 3. 生徒が何をすればいいかを明確にするために、図示も文字説明も PPT で展示するだけでなく、教師は再び口頭で説明しながら、マインドマップを使って板書もする： ①組み分けのカードを配る→②専門グループで読む→③自分で暗唱→④タスクシートの回収→⑤基本グループで共有→⑥順番の発表→⑦内容の整理

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

			地固めをするため。 6. 生徒の興味関心や、想像力や上演の意欲を引き出すため。	
20分	ステップ4：ロールプレイしよう (活動2)	ルールと評価の基準をはっきりさせて、タスクシートや評価シート1と発表のマナーというプリントを配布してから活動を始める。 ルールについての説明 (PPT) 1. 内容 評価シートの内容を理解してから、専門グループごとに最初に読んだ童話の一部をロールプレイする。(準備する時間は5分間!) 2. マナー 発表開始時：今日は、私たちは〇〇グループです。～と申します。亀の役割を演じます。よろしくお願いします。～と申します。浦島太郎の役割を演じます。よろしくお願いします。...それでは発表させていただきます。発表終了時：以上です。ご清聴ありがとうございます。(プリント) 3. 評価 他のグループの発表を聞いて、評価シート1でピア評価も自己評価もする。 4. 奨励 結果をPPTで展示する評価シート2に記入してから、(教師評価もする) 一番優れたグループが奨励をもらう。(抽選)	インプットとアウトプット活動を組み合わせた練習。 2. 協働作業の能力を育成する。 3. 生徒に達成感を持たせる。 4. 教師が生徒の童話への理解程度が把握できる。 5. 評価の要素を	1. 発表のマナーに注意させる一方、板書する： 挨拶→自己紹介→役割分担→お礼の言葉 2. 日本語書籍；自己決定；宿題の一回免除；ノートという四つの奨励カードの用意。 3. 賞品をあげたら、教師は「〇〇グループおめでとうございます。他のグループもよく頑張りましたね」と笑顔でコメントしながら、拍手させる。

※2 ページ以上になってもいいです、詳しく書いてください。ただし、項目は変更しないでください。

		評価シート 1 ☆☆☆ 努力必要 ☆☆☆ まあまあ ☆☆☆ よくできた <table border="1" data-bbox="320 322 917 920"> <tr> <th></th><th>表現力</th><th>言語表現</th><th>チームワーク</th><th>動作や道具</th><th>総合 ☆</th></tr> <tr> <td>A</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>B</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>C</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>D</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>E</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> </table> 表現力：表情や感情の豊かさ 言語表現：綺麗な発音やはっきりと発音する、礼儀正しさ 評価シート 2 <table border="1" data-bbox="320 1249 917 1691"> <tr> <th></th><th>A☆☆</th><th>B☆☆</th><th>C☆☆</th><th>D☆☆</th><th>E☆☆</th></tr> <tr> <td>A</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>B</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>C</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>D</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>E</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>教師</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> <tr> <td>総合</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td><td>☆☆☆</td></tr> </table>		表現力	言語表現	チームワーク	動作や道具	総合 ☆	A	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	B	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	C	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	D	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	E	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆		A☆☆	B☆☆	C☆☆	D☆☆	E☆☆	A	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	B	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	C	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	D	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	E	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	教師	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	総合	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	理解したら、生徒がどんな発表がいい発表かイメージを持ちやすくなる。	4. 評価シート 1 と発表のマナー (人数分) 5. 自己評価、ピア評価、教師評価の組み合わせ。
	表現力	言語表現	チームワーク	動作や道具	総合 ☆																																																																																			
A	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
B	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
C	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
D	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
E	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
	A☆☆	B☆☆	C☆☆	D☆☆	E☆☆																																																																																			
A	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
B	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
C	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
D	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
E	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
教師	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
総合	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆																																																																																			
2 分	ステップ 5 : まとめましよう	Can-do チェック Can-do 目標に達成したかどうか、「よくできた」、「できた」、「まだ難しかった」のどれかに挙手させる。    ☆☆☆ まだ難しかった ☆☆☆ できた	1. Can-do 目標として、授業の学習目標に達成したかどうかをチェックさせる。 2. 達成感を持たせる。	教師は「次はよくできたになるよう頑張りましょうね」とコメントしてあげる。																																																																																				

		☆☆☆ よくできた <table><tr><th>Can-do</th><th>評価</th></tr><tr><td>日本人が授受動詞を使っている理由がわかる。</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>授受表現を含む日本の童話がピアリーディングできる。</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>童話の内容や、登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて理解することができる。</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>チームワークでロールプレーできる。</td><td>☆☆☆</td></tr></table>	Can-do	評価	日本人が授受動詞を使っている理由がわかる。	☆☆☆	授受表現を含む日本の童話がピアリーディングできる。	☆☆☆	童話の内容や、登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて理解することができる。	☆☆☆	チームワークでロールプレーできる。	☆☆☆	3. 自信を高められる。	
Can-do	評価													
日本人が授受動詞を使っている理由がわかる。	☆☆☆													
授受表現を含む日本の童話がピアリーディングできる。	☆☆☆													
童話の内容や、登場人物の人間関係や心理活動、及び性格特徴などについて理解することができる。	☆☆☆													
チームワークでロールプレーできる。	☆☆☆													
1分	ステップ6：宿題	グループで中国の童話の一つ選んで、舞台劇に改編してください。 要求： 1. 日本語で脚本を書く。 2. できるだけ多くの授受表現も加える。	日本語で「中国の物語」を語ることを通して、授受表現を使っている上で、異文化理解能力も中国の情感を持った優れた品格も育成し、文化への自信を高めていく。	「日本の物語」が語れることと逆に、反対の角度から考える。										
工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など） 1. 教科書の中で授受表現を多く含む文章はないので、このような文章を探すのが大変だ。浦島太郎という童話を見つけ出したら、ちょうど生徒たちがこの童話を読んだことがないことに気づき、これをこの授業の読解素材にした。 2. 学習目標、学習活動と評価の一体化。 3. 生徒たちが授業に意欲的に取り組めるように本授業を設計する。 4. 評価シートを作ること。														
★研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。 （例：〇〇の講座で◇◇について学び、授業では△△の部分に取り入れた など） 参加年： 2020 年 / 研修会名：2020 年秋季长三角地区巡回日语教师研修 1. ピアリーディングの運用 2. Can-do の使い方の活用														